資料提供

報道機関各位

令和８年８月20日
茨城県県北家畜保健衛生所

「豚熱防疫対策研修会」を開催します

― 新たな「選択的殺処分」と県内流行疾病の最新動向 ―

家畜保健衛生所では、豚熱の発生を未然に防止するため養豚関係者を対象とした研修会を毎年開催しています。今回は、令和８年５月に導入された「豚熱発生時の選択的殺処分」をはじめ、県内で流行している豚疾病の最新動向について情報共有を行い、防疫体制の強化と関係者の連携強化を図ります。

つきましては、本研修の内容を広くお伝えいただくため、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

日 時　令和８年８月27日（木）13:30～16:00

会 場　（公財）茨城県開発公社４F大会議室（水戸市笠原町978-25）

対 象　養豚経営者、獣医師、動物医薬品販売業者、飼料会社、と畜場関係者、市町村・県関係者　約100名

内 容　（１）豚熱の防疫対策

・県内野生イノシシにおける豚熱ウイルスの感染状況

・新たな殺処分制度（選択的殺処分）の概要

（２）県内流行疾病の動向

・県内における豚丹毒の特徴

・県内におけるPRRS（豚繁殖・呼吸障害症候群）の特徴

（３）意見交換

共 催　（公社）茨城県畜産協会、茨城県養豚協会



【お問い合わせ先】
茨城県県北家畜保健衛生所 石井
TEL　029-225-3241
FAX　029-224-6661

2026 8/27 木

資料提供

「豚熱防疫対策研修会」概要

① 県内野生イノシシにおける豚熱ウイルスの感染状況

豚熱は、感染した野生イノシシが保有するウイルスが養豚場へ侵入し、飼養豚に感染することで発生します。このため、野生イノシシにおける豚熱の感染状況を把握し、農場へのウイルス侵入防止対策につなげるため、これまでに収集した陽性検体について遺伝子解析を実施しました。

研修会では、その解析結果を紹介するとともに、農場へのウイルス侵入防止対策を継続して徹底する重要性を周知します。

② 新たな殺処分制度（選択的殺処分）の概要

従来、農場での豚熱発生時には飼養豚の全頭殺処分が行われておりましたが、発生農場の経営への影響や防疫作業に伴う人的・財政的負担が大きいことが課題となっていました。こうした中、ワクチン接種により十分な免疫を獲得した豚は、殺処分の対象から除外しても感染拡大リスクに大きな影響を及ぼさないことが科学的に示され、今般の家畜伝染病予防法の改正により「選択的殺処分」が導入されました。

研修会では、制度の考え方や発生時の新たな防疫対応について説明します。

③ 県内における豚丹毒の特徴

豚丹毒は細菌による疾病で、ワクチン接種による予防や抗菌剤による治療が可能です。しかし、令和6年に県内で発生が急増したことから、発生事例から検出された豚丹毒菌を解析した結果、複数の抗菌剤が効きにくい「多剤耐性株」が確認されました。

研修会では、県内における豚丹毒菌の薬剤耐性の状況を紹介するとともに、抗菌剤の適正使用の重要性について説明します。

④ 県内におけるPRRS（豚繁殖・呼吸障害症候群）の特徴

PRRSは、豚の免疫力を低下させ、さまざまな疾病の発生要因となるほか、多くの農場で慢性的にみられる疾病です。養豚場にとって身近な疾病である一方、ウイルスの排除が難しく、対策に苦慮する疾病でもあります。

研修会では、県内の発生状況や遺伝子解析結果を紹介するとともに、定期的な検査による感染状況の把握や、農場への新たなウイルス侵入防止対策の重要性について説明します。

茨城県県北家畜保健衛生所